



令和3年10月13日  
内閣府 宇宙開発戦略推進事務局  
準天頂衛星システム戦略室

## 国際海事機関（IMO）第104回海上安全委員会（MSC 104）の開催結果概要

～我が国独自の衛星測位システム「みちびき（準天頂衛星システム）」が  
船舶で国際的に利用できるシステムに位置付けられました～  
（開催期間：令和3年10月4日から8日まで、オンライン会議）

これまで、我が国は、独自の衛星測位システム「みちびき（準天頂衛星システム）」<sup>（※1）</sup>を、船舶で国際的に利用できる衛星航法システム<sup>（※2）</sup>に位置付ける提案をIMOで行い、審議を重ねてきました。今次会合では、「みちびき」の性能が衛星航法システムの国際基準に適合することが確認され、船舶での利用に必要なIMOの承認が得られました。同システムは、外洋のみならず、船舶が輻輳する沿岸航行時等の航行支援のための運用基準に適合する世界初のものです。

我が国は、2018年5月の第99回IMO海上安全委員会（MSC 99）において、我が国独自の衛星測位システムで高精度な位置情報を提供する「みちびき（準天頂衛星システム：QZSS）」を国際的に利用される船舶用の衛星航法システムとして位置付けることを提案し、以降、MSC及び傘下の小委員会（NCSR<sup>（※3）</sup>）において検討が行われてきました。

今次会合では、「みちびき」の性能が船舶用の衛星航法システムとして外洋のみならず、沿岸航行及び入出港時に必要な測位精度や信頼性等の基準<sup>（※4）</sup>に適合していることが確認され、船舶用の衛星航法システムとして、正式に位置付けられました。

外洋のみならず、船舶が輻輳する沿岸航行時等の航行支援のための運用基準に適合する衛星航法システムはこれが世界初<sup>（※5）</sup>です。今後、我が国関係船舶のみならず、諸外国の船舶にも広く利用されることで、海上輸送の安全性向上が期待されます。

※1：みちびき（準天頂衛星システム：QZSS）の概要



出典：<https://qzss.go.jp/>

衛星測位システムとは、衛星からの電波によって位置情報を計算するシステムのことで、米国のGPSがよく知られており、みちびきを日本版GPSと呼ぶこともあります。4機以上の衛星で衛星測位は可能ですが、安定した位置情報を得るためには、より多くの衛星が見える必要があります。みちびきはGPSと一体で利用できるため、多くの可視衛星数を確保し、安定した高精度測位を行うことを可能とします。

※2：海上人命安全条約（SOLAS条約）に基づき船舶に搭載される衛星測位システムの受信機等で使用される測位システム。IMOにおいて、測位精度等の基準適合を確認し、認証を受ける必要がある。

※3：船舶の航路指定、無線設備や航海機器の技術基準・搭載要件、搜索救助に関する国際的指針等について検討を行う小委員会。

※4：基準（IMO総会決議 A. 1046(27)）の例

測位精度（外洋航行時誤差100m以内、沿岸航行時誤差10m以内）

信頼性（外洋航行時：システム稼働率99.8%、沿岸航行時：システム稼働時、各15分間で99.97%の連続稼働を追加要求）

※5：既存の船舶用の衛星航法システム認証を受けた測位システムであるGPS(米国)、GLONASS(ロシア)、Galileo(欧州)、BeiDou(中国)及び IRNSS(インド)はいずれも外洋航行時の航行支援のための運用基準にのみ適合



【問い合わせ先】

内閣府 宇宙開発戦略推進事務局 準天頂衛星システム戦略室 本江  
電話：03-6257-1778 FAX：03-3581-8803